

第22回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成30年4月18日（水） 15:00～16:50

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第2大会議室

1. 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」に資する「予備エンジニアリング」の取り組みについてNDFから予備エンジニアリングの取り組みについて説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出しにおいて、内部調査を進め周辺状況を明らかにすることは、作業の手戻りの発生を防ぐ上で重要である。
- 燃料デブリ取り出しの作業環境の構築について検討する際は、作業時の安全基準を明確にして検討することが重要である。

2. 燃料デブリ取り出しの検討状況について

東京電力から、燃料デブリ取り出しの検討状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出し作業計画について、規制当局への説明も併せて実施するべきである。
- 燃料デブリ取り出し作業は、燃料デブリが存在する3つの号機について、号機の順番や並行作業の可能性等の具体的な計画について、3つの号機の各状態に配慮しながら検討していくべきである。
- 燃料デブリ取り出し作業を行う前に、作業員被ばく低減の観点から、作業環境構築としての現場の線量低減についても検討するべきである。また、そのための現場データの把握についても重要であり、その対応についても検討するべきである。
- 燃料デブリ取り出しの初号機の決定に当たっては、取り出し作業の容易さのみに注視して決定するのではなく、今後の作業のためにどのような技術を獲得し、今後どう展開することができるかも見据えた上で行うことが重要である。
- 初号機における成果は、他号機の設計にフィードバックされるべきであり、良い技術があれば、設計の共有化も考慮すべきである。
- 燃料デブリの定義については、燃料デブリの保管の観点からも検討し定めていくべきである。

以上